

氏名	新 宅 俊 昭
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 6 9 号
学位授与の日付	昭和39年 3 月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学 位 論 文 題 目	妊娠産褥における尿中プレグナントルオール(5 β - Pregnane-3 α , 17 α , 20 α -triol) に関する研究
論 文 審 査 委 員	教授 橋 本 清 教授 水 原 舜 爾 教授 山 崎 英 正

学 位 論 文 内 容 要 旨

妊娠と 5 β -Pregnane-3 α , 17 α , 20 α -triol (以下 Pt と略す) の関連については、数編の報告しか見られず、尿中の Pt は今迄主として副腎のみから分泌されていると考えられていたが、妊婦尿については胎盤からも分泌されるのではないかと云う事が考えられる様になって来ている。本研究は、妊産褥婦尿計 142 検体について Pt 値, 5 β -Pregnane-3 α , 20 α -diol (以下 Pd と略す) 値を同時に測定し、Pt の消長並びに Pt と Pd との関係を検討した。

その結果は、(1)妊娠時のPt値(平均値=1434 μ g), Pd 値(平均値=17.8mg)は共に、非妊婦人分泌期の Pt 値(804 μ g), Pd 値(3.8mg)に比べ増量している。又妊娠初期より、Pt 値, Pd 値共に増量している。(2)胎盤娩出後は、Pt 値, Pd 値共に減少し(Pt=1/9, Pd=1/28)産褥5日目にはPt=235 μ g, Pd=0.9mgとなり、非妊婦人増殖期の Pt 値(375 μ g), Pd 値(1.3mg)に復帰した。(3) Steroid の生合成及び代謝経路の観点からみて、Pt/Pd 比は興味あり、その比は、妊娠時と非妊娠時とは明らかな差がみられた。(4)去勢婦人尿中の Pt 値は、胎盤性々腺刺激ホルモン(ゴナトロピン)注射に依り変動がみられなかった。

以上の諸点より、妊娠中の Pt の増加は胎盤性のものと推察しえた。従って胎盤に於ても Pd の前駆物質である Progesterone から、Ptの前駆物質である 17-Hydroxyprogesterone に至る代謝経路があると推論する事が出来る。

論文審査の結果の要旨

新宅俊昭提出の「妊娠産褥に於ける尿中プレグナントリオールに関する研究，特にプレグナンディオールとの関連について。」

著者は先に（副論文1）Pt（プレグナントリオール）の測定法を改良し，非妊婦人に於てPt（Pd）と同時に測定，月経周期に応じて分泌期にはPt，Pd共に増量することを認め報告している。

本研究では妊娠産褥婦尿142検体に就いて同様にPtとPdの同時測定を行った。

妊娠と共に初期からPt量の増加を認めるが，妊娠末期3ヶ月では有意の差で増量を認める。分娩予定日超過側では僅かに減少するが有意差はない。分娩終了後は急速に減少し産褥第5日では非妊時の増殖期の値に復帰する，妊娠は週前后に於て一適性に減少しゼロになるとの先人報告があるが，同一人に就て逐時的に計測した2症例では，この附近で幾分低下はするが消失はみなかった。胎盤量費とPt，Pd値との間には相関関係は認められなかった。Ptと同時に計測されたPdについてPt/Pd比を求めると興味のある事実が発見された。即ち妊娠初期と妊娠中後期の間難妊時，男子尿等夫々に特有の比率を示している点である。Pt/Pd比を求めることによってPtの分泌される臓器の相連，或はその活動状況の差を推測出来る。又去勢婦人に胎盤性ゴナトロピンを授与してもPt，Pdに変化はみられなかった。

以上の通り本論文は新しい知見に富み，学術上有益であり，著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。